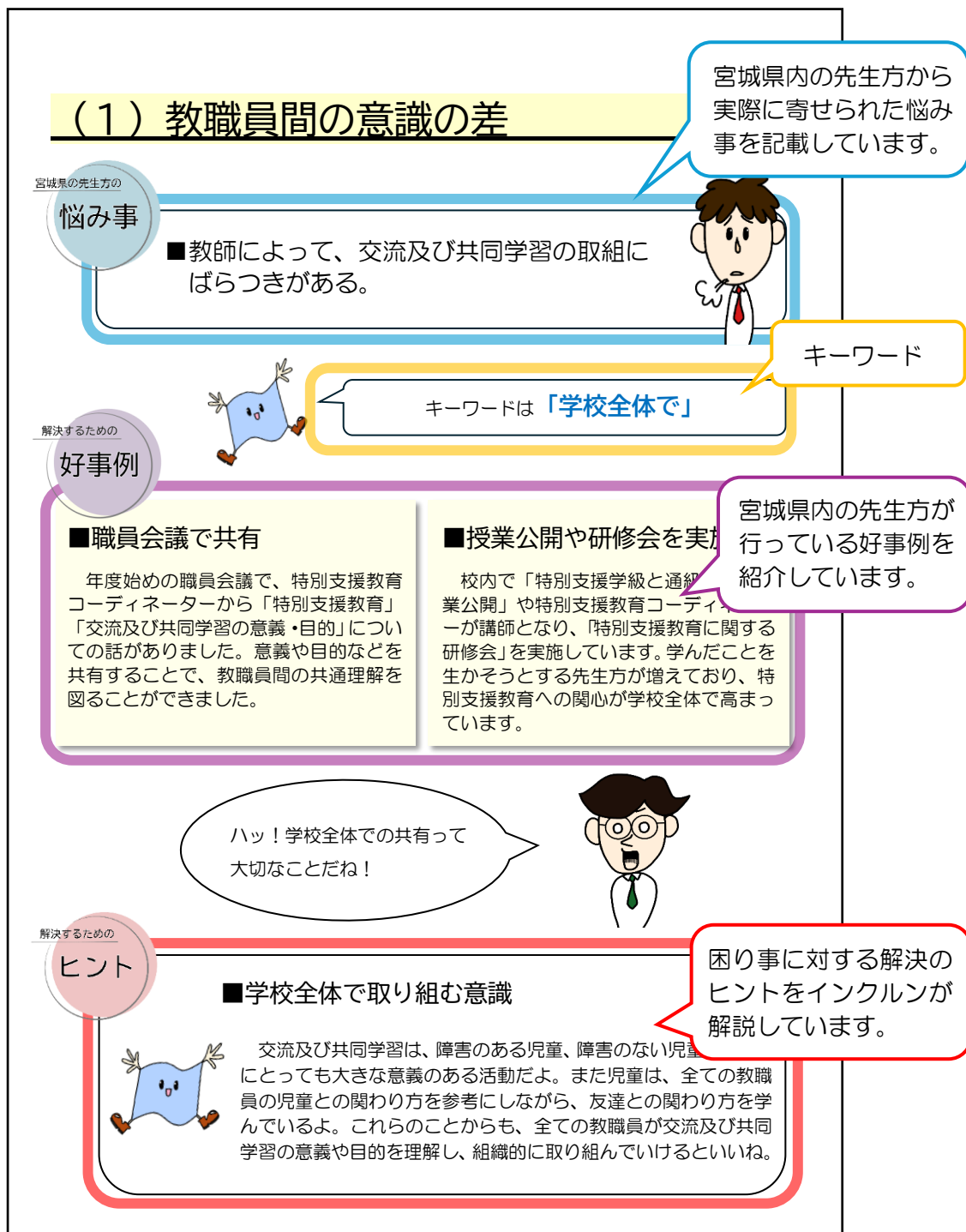


「つなぐー宮城県内の好事例集ー」の見方

■活用にあたって

- ・宮城県内の先生方から寄せられた好事例をまとめています。
- ・実践例を参考に、学校の実情や児童の実態に応じて、できることから実践したり、更に工夫を加えたりしてみましょう。



(1) 教職員間の意識の差

宮城県の先生方の

悩み事

■教師によって、交流及び共同学習の取組にばらつきがある。



解決するための

好事例



キーワードは「学校全体で」

■職員会議で共有

年度始めの職員会議で、特別支援教育コーディネーターから「特別支援教育」「交流及び共同学習の意義・目的」についての話がありました。意義や目的などを共有することで、教職員間の共通理解を図ることができました。

■授業公開や研修会を実施

校内で「特別支援学級と通級教室の授業公開」や特別支援教育コーディネーターが講師となり、「特別支援教育に関する研修会」を実施しています。学んだことを生かそうとする先生方が増えており、特別支援教育への関心が学校全体で高まっています。

ハッ！学校全体での共有って大切なことだね！



解決するための

ヒント

■学校全体で取り組む意識



交流及び共同学習は、障害のある児童、障害のない児童、どちらにとっても大きな意義のある活動だよ。また児童は、全ての教職員の児童との関わり方を参考にしながら、友達との関わり方を学んでいるよ。これらのことから、全ての教職員が交流及び共同学習の意義や目的を理解し、組織的に取り組んでいけるといいね。

(2) 教職員間の連携

宮城県の先生方の

悩み事

■時間が確保できず、児童の実態や支援目標、指導目標、教科のねらいなどを教職員間で共有することができない。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**連携の仕組み**」

■年度始めの情報共有

年度始めに特別支援教育コーディネーターが主体となり、校内支援委員会を開催し、交流及び共同学習のねらいや特別支援学級の児童の実態などについての情報共有を行っています。

■教職員の机の配置を工夫

職員室内の特別支援学級担任と交流学級担任の机を近くに配置しています。いつでも気軽に情報の共有を行うことができます。

■T1・T2交替制

教科や単元によって交流学級担任と特別支援学級担任がT1とT2を交替しながら授業を行っているため、担任同士で頻繁に情報共有ができています。特別支援学級担任と交流学級の児童の関係も構築されていくため、児童同士の「つなぎ役」になることも多々あります。

ハッ！いろいろな
連携の仕組みが
考えられるんだね！



解決するための

ヒント

■役割と仕組みの確認



特別支援学級担任、交流学級担任、支援員で、それぞれの役割を確認しよう。また、情報を共有するための場の設定や方法など、連携の仕組みを確認し、定期的に見直そう。

※7ページ「(2)それぞれの役割(例)」、8ページ「(3)共有しておきたいこと」に関連事項が載っているよ。参考にしなね。

(3) 交流学級での様子の共有

宮城県の先生方の

悩み事

- 特別支援学級担任が交流学級の授業に行けず、様子を把握できない。
- 目が離せない児童があり、他の児童の交流の様子が分からない。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**短時間での情報共有**」

■情報共有シート

学習内容や児童の努力したこと、課題、次回の学習内容、交流学級の様子などについて、支援員や副担任が授業を見ながらシートに記入しています。授業後にシートを担任も確認することで、努力したことを褒めたり、気になったことに対応したりすることができています。

■短時間でも話す習慣

朝や放課後などに交流学級担任と特別支援学級担任とで交流学級の活動で気になることや児童の様子などについて、情報共有を行うようにしています。毎日話しているとポイントが絞れ、短時間でも必要な内容を共有できるようになりました。

ハッ！工夫次第で情報共有がうまくできるんだね！



解決するための

ヒント

■短時間で情報を共有するポイント



交流及び共同学習を行うにあたって、授業中の児童の様子を把握することはとても大切なことだね。関係する教職員間で、記録・共有する内容を事前に決めておくと、情報の共有が短時間で行えるよ。

記録・共有する内容の例は、次のページの教えて！インクルン①「交流学級で記録・共有すること～授業に関して～」を参考にしね。

**教えて！インクルン①****「交流学級で記録・共有すること」
～授業に関して～**

毎時間の授業で記録し、特別支援学級担任、交流学級担任、支援員間で共有する内容の例を以下に示します。実際に記録・共有する内容については、学校の実情や児童の実態に合わせて、ご検討ください。

■記録・共有する内容の例**1. 特別支援学級の児童について**

○よかったこと

- ・できたこと
- ・頑張れたこと
- ・楽しめたこと
- ・交流学級の児童と協力できたこと など

○課題

- ・できなかったこと
- ・頑張れなかったこと
- ・楽しめなかったこと など

※それぞれの場面を見取った際の手立てや声掛け、学習内容などを一緒に記録しておく、後の指導や支援に生かすことができます。

2. 交流学級の児童について

○授業中の様子

○特別支援学級の児童とどのような関わりが見られたか

※「関わり」には、「一緒に活動する」「話し掛ける」「手助けする」だけでなく、「見守る」「困っていることを教師に伝える」なども含まれます。

上記のような内容を記録して蓄積したり、個別の教育支援計画や個別の指導計画に記載したりしていくことで、交流及び共同学習に関する評価や引継ぎに生かしていくこともできるよ。



(4) 交流学級の急な予定変更

宮城県の先生方の

悩み事

- 急な予定の変更で、混乱する児童がいる。
- 授業の予定が当日の朝まで確定しない。



宮城県の先生方の

好事例

キーワードは「**組織的な対応**」

■職員会議で共通理解

以下の点についての共通理解を図っています。

- ・交流及び共同学習を実施する時間はできるだけ変更しない。
- ・どうしても変更が必要な場合は「交流及び共同学習を行う教科と入れ替える」または「なるべく早く伝える」。

■週予定の確認

計画的に授業を実施していくために、翌週の予定を木曜日までに共有し合うようにしています。交流学級にとっても、特別支援学級にとっても、予定が立てやすく、交流及び共同学習の授業を円滑に実施することができています。

ハッ！授業予定についての確認と共有も大切だね！



解決するための

ヒント

■管理職や教務主任と連携



交流及び共同学習を円滑に実施するためには、週予定の素早い確認や共有、予定通り行うことがとても大切なんだ。管理職や教務主任ともしっかり連携して、組織的に対応できる状況をつくっていけるといいね。

(1) 特別支援学級の児童への支援体制

宮城県の先生方の

悩み事

- 交流学級に支援員が付き添えない場合がある。
- 担任が付けず、支援が思うようにならない場合がある。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「支援方法の共有」

■ 情報共有と支援の検討

特別支援学級の児童の特性やねらいを関係する教職員間で共有しました。また、活動しやすいグループ編成、活動内容、支援方法などについて検討し、特別支援学級の児童にとって負担にならないよう工夫しました。

■ 事前に支援方法を確認

事前に、特別支援学級担任、交流学級担任、支援員で、児童との関わり方、児童に対する支援方法などをしっかり確認しました。そうすることで、どの教職員でも同じように対応できるようにしました。

学級担任向け資料動画編④
「よりよい活動にするヒント」



ハッ！
関係する教職員が
つながっていることが
大切なんだね！



解決するための

ヒント

■ 本人の気持ちに対する配慮も大切



本人の気持ちを無視するような支援をすると、成長を妨げたりプライドを傷付けたりすることが起こり得るよ。本人の様子をよく観察しながら支援しよう。内容によっては、事前に本人や保護者と合意形成を図ったり、交流学級の児童に対して、なぜ支援が必要なのか、本人の困り事に関連させて説明したりするといいよ。

(2) 交流学級での支援の工夫

宮城県の先生方の

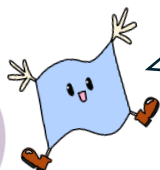
悩み事

- 付き添った担任が指示ばかりしてしまう。
- 活動や指導の工夫をどうしていくべきか悩んでいる。



宮城県の先生方の

好事例



キーワード

「授業ユニバーサルデザイン」



「ともまなびガイド」授業UDとは

■教室環境の整備

- ・座席の配置を工夫する。
(例) 集中できるように列の前に配置
ヘルプを出しやすい場所に配置
必要な時にパーテーションを活用
- ・椅子の足にテニスボールを装着する。
(静かな教室)
- ・かごを使って物を整理する。

■みんなが分かりやすい工夫

- ・1回に1つの指示をする。
- ・少ない言葉で簡潔に説明する。
- ・視覚的な支援をする。
(例) 手順表やタイマーの活用

■個別の工夫

- ・タブレットを活用する。
(例) 調べ学習や意見の伝え合い
学習課題や資料の提示
アクセシビリティ機能を設定
- ・ミニホワイトボードにやるべきことの
手順などを書いておく。

ハッ！全体への工夫と
個別の工夫をうまく
組み合わせるんだね！



解決するための

ヒント

■共に学べる工夫



平成30年度宮城県総合教育センター特別
支援教育グループ「ともまなびガイド」に学
習の困難さごとの配慮や支援の手立てが記載
されているから参考にしなね。



「ともまなびガイド」
特性理解編

(3) 学習中の友達との関わり

宮城県の先生方の

悩み事

- 学習中に友達との距離感がある。
- 友達との話し合いに加わるなどが難しく、交流のよさが生かせない。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**教師がつなぎ役**」

■ グループ編成の工夫

以前から仲のよい児童や、本人が話しやすいと思っている児童と同じグループにすることで、安心感を持って活動に参加することができました。

■ 児童同士のつなぎ役になる

特別支援学級の児童が「分からないから教えて」「教えてくれてありがとう」など、友達に伝えられるように声掛けしました。なるべく児童と児童のつなぎ役になることを意識しています。

■ 児童のやりとりを見守る

児童同士のやりとりを見守り、困った様子が見られた場合は混ざって、うまくやりとりができるように声を掛けました。

ハッ！児童の様子を見守りながら、必要なときにはつなぎ役になるんだ！



解決するための

ヒント

■ 担任と児童との良好な関係



特別支援学級の児童と交流学級の児童をつなぐためには、特別支援学級担任と交流学級の児童、交流学級担任と特別支援学級の児童とで、良好な関係をつくることも大切。それが、双方の児童の安心感にもつながるよ。積極的にコミュニケーションをとろう。

(4) 評価

宮城県の先生方の

悩み事

- 一人一人の様子を見取れず、評価が曖昧になる。
- 担任が見に行けない教科の評価が難しい。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「記録の蓄積」

■評価者の確認

年度始めに、特別支援学級担任と交流学級担任で評価について打合せをしました。交流学級での学習に関しては、特別支援学級の児童の評価を、交流学級担任が記入することを確認してから授業を行ったことで、スムーズに評価できました。

■シートを活用

学習の様子を記入するシートを用いて、交流学級担任、特別支援学級担任、支援員で児童の情報を共有できるようにしました。シートを蓄積することで、情報を評価に生かすことができました。

ハッ！記録があれば
評価に生かせるね！



解決するための

ヒント

■記録の蓄積



交流及び共同学習について、児童の様子を記録し蓄積していくことは、日々の指導や支援の改善、児童の実態の把握、評価、次年度への引継ぎなど、様々なことに生かすことができるよ。

(1) 交流学級の児童による特別支援学級の児童の理解

宮城県の先生方の

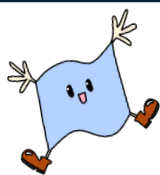
悩み事

■交流学級の児童に、特別支援学級の児童の特性や特性上できないことを理解してほしい。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**本人の特性を伝える**」

■休み時間を活用

保護者の許可を得ながら、授業だけでなく休み時間も交流学級の児童と関わる時間を設定し、特別支援学級の児童の実態が伝わるようにしました。

■関わり方を伝える

交流学級の担任から児童に対して、特別支援学級の児童が苦手なことなどを説明しました。また、どんな関わりをしてほしいか交流学級の児童に伝えました。

■困り事を説明

特別支援学級の児童の困り事を、特別支援学級担任から交流学級の児童に説明しました。

その後、マイナスな発言や避けるような態度が減り、協力する態度や困っている際に声掛けをする児童が増えました。

ハッ！
どんな「障害」か説明するんじゃないのか！
あれ？そもそも「障害」ってなんだろう…。



次のページの
教えて！インクルン②
「障害ってなんだろう」
を参考にしな。



学級担任向け資料動画編④
「よりよい活動にするヒント」



解決するための

ヒント

■繰り返し説明

特性が行動に現れた場面やトラブルが発生した場面があれば、その都度、交流学級の児童に説明し、理解を促していこう。

児童の特性を説明したい場合は、事前に保護者の同意を得よう。どのように伝えるかも含めて、機会を見て確認しておくといいね。

また、特別支援学級の児童が、自分の得意なことや困っていることを伝えられるように、自己理解する時間を設定したり、伝え方を練習したりすることも大切だよ。



Ⅱ. 「つなぐー宮城県内の好事例集ー」 3. 児童に関する課題に対する好事例



教えて！インクルン② 「障害ってなんだろう」

■「障害の社会モデル」

「障害の社会モデル」とは、『「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である』という考え方であり、障害者権利条約に反映された理念でもあります。

（ユニバーサルデザイン 2020 行動計画：首相官邸ホームページ平成 29 年 2 月 20 日決定、令和 2 年 12 月 22 日一部改正）

■「社会的障壁」

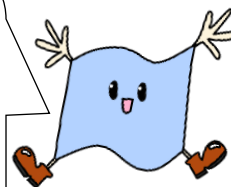
「社会的障壁（バリア）」とは、「多様な人がいることを考慮しない社会によって創り出されたもの」であり、社会的障壁は大きく分けて 4 つあります。

バリアの種類	説明と具体例
物理的なバリア	公共交通機関、道路、建物などにおいて、利用者に移動面で困難をもたらす物理的なバリアのこと 例) エレベーターのボタンの位置が高く、車椅子を使っている人はボタンが押せない
制度的なバリア	社会のルール、制度によって、障害のある人が能力以前の段階で機会の均等を奪われているバリアのこと 例) 盲導犬への理解が足りず、入店を断られる
文化・情報面でのバリア	情報の伝え方が不十分であるために、必要な情報が平等に得られないバリアのこと 例) 音声のみのアナウンスで、聴覚障害の人に情報が伝わらない
意識上のバリア	周囲からの心ない言葉、偏見や差別、無関心など、障害のある人を受け入れないバリアのこと 例) 点字ブロックの上に荷物を置いてしまい、視覚障害の人が通行できない

政府広報オンライン「知っていますか？街の中のバリアフリーと「心のバリアフリー」

(<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201812/1.html>) を加工して作成

このようなバリアは、障害がある人や高齢者など、多様な人がいることを考え、みんなが参加しやすく変えていくことで解消することができるよ。学校においても、学校で行う学習活動に、全ての児童が参加しやすくなるように、どのようなことがバリアになっているのか、それを解消するために何ができるかを考えてみるのが、教職員にとっても、児童にとっても、障害理解を深めるよい機会になるかもしれないね。



(2) 交流学級の児童と関わる力を高める工夫①

宮城県の先生方の

悩み事

■特別支援学級の児童によく声を掛けてくれる
交流学級の児童が限られている。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**教員のしかけ**」

■開かれた学級

児童の交流の輪を広げるために、ルールを決めて特別支援学級を「開かれた学級」にしました。ルールは「名札を付ける」「嫌なことは言わない・しない」「先生がいないときは入らない」です。休み時間も交流学級の児童と交流をする機会となり、一緒に活動する意欲が高まりました。

■交流学級で役割を持つ

係活動や当番活動を一緒にできるようにしました。一緒に活動する友達が定期的に変わることで、様々な児童と交流する機会となりました。学校行事や給食、掃除の時間にも交流を行っています。

■イベントを企画

特別支援学級で企画したイベントに交流学級の児童が参加しました。どちらの児童も純粋に楽しんでいて、自然と感謝の言葉が聞かれました。

■所属感を高める工夫

特別支援学級の児童が特別支援学級に行く際には「行ってきます」「行ってらっしゃい」、戻る際には「ただいま」「おかえり」と互いに声掛けをし合うようにしました。

解決するための

ヒント

■交流学級の一員だと感じさせる工夫



特別支援学級の児童が、交流学級の一員だと感じられる場面が増やせるといいね。双方の児童の負担が大きくなることに注意しながら、交流の場面を工夫してみよう。

でも、人数が少なくても、関わりのある友達がいることは素晴らしいことだよ。その友達との関係も大切にしたいね。

(3) 交流学級の児童と関わる力を高める工夫②

宮城県の先生方の

悩み事

- 交流学級の児童と関わらず、困っている。
- 交流学級の児童とうまく関われるようにする支援の方法が分からない。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**特別支援学級での学習を生かす**」

■ スモールステップ

交流学級担任や児童に、自分の状況や気持ちが伝えられるように特別支援学級で練習しました。どうやったら伝えられるようになるのか、スモールステップを考え、練習したことを交流学級で実践しています。

■ 自立活動の活用

複数の特別支援学級が合同で行う自立活動の時間を設定しています。小さい集団で行うことで、順番や勝敗にこだわり過ぎないなど、コミュニケーションスキルの獲得につながる目標を設定して取り組んでいます。

■ 交流学級担任との共有

特別支援学級の児童が練習していることを交流学級担任と共有しました。児童が実践しやすいように、交流学級担任と協力して、場を設定したり、声掛けしたりすることで、スムーズに実践できました。

ハッ！交流及び共同学習が、特別支援学級での学びを生かす時間になるのか！



学級担任向け資料動画編⑤
「特別な支援を要する児童の
スキル習得」



解決するための

ヒント

■ 実践できる環境づくりや関係づくり



特別支援学級で学習したことを交流学級で実践するためには、落ち着いた学習環境や、交流学級の児童との関係も大切だよ。双方の担任が連携して、児童の実践を支援したり、特別支援学級の児童と交流学級の児童の関係をつないだりしよう。

(4) 交流学級に行きたがらない場合

宮城県の先生方の

悩み事

- 高学年になり、交流に抵抗感を持つようになった。
- 児童の気持ちによって参加できないことがある。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「心に寄り添う」
「交流学級との協力」

■話を聞き、気持ちを整理

児童の話を聞き、学習に向かう気持ちを整えるようにしました。その後に教師が背中を押すような声掛けをすると、交流学級の授業に行くことができました。

■教師や児童の働き掛け

交流学級担任や児童が、特別支援学級の教室に足を運び、優しく声を掛けたことで、特別支援学級の児童の気持ちが前向きになりました。

学級担任向け資料動画編⑥

「特別支援学級の児童が交流学級に行きたがらない場合」



解決するための

ヒント



■交流学級に行けなかった場合の準備

児童によって行きたくない理由は様々。教室に入ることが難しい期間も、児童にとっては自己理解の大事な時間になるかもしれないよ。焦らず、児童の気持ちを察して寄り添おう。児童が好む教材やプリントなどを事前に準備しておくことで、急に交流学級に行けないという事態が起こっても対応できるし、児童の気持ちを落ち着かせる一助になるかもしれないね。

■関係する教職員との連携

特別支援学級担任が一人で頑張るのではなく、関係する教職員と連携して支援の仕方を検討したり、児童が安心して交流学級に行けるように受け入れ体制を整えたりしよう。

(5) 交流学級の児童との実態の差

宮城県の先生方の

悩み事

- 交流学級の児童との差が大きくなり、できる交流が減ってきた。
- 高学年になると学習支援が追いつかない。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**実態に応じて工夫**」

■ 学習する時間の工夫

高学年になり、授業についていけない様子が見られるようになってきました。本人、保護者、双方の担任で相談し、1時間の授業のうち、前半は交流学級の教室で、後半は特別支援学級の教室で学習することにしました。

■ 計画の見直し

交流学級でのつまずきが、児童の自己肯定感を下げてしまっているように感じたので、年度途中に本人、保護者と相談し、計画を見直しました。単元、活動内容などによって、交流及び共同学習を実施するかどうかを決めました。

■ 実態に応じたねらいを設定

授業に参加する前に、交流学級の児童とは別に、特別支援学級の児童の特性や発達段階に応じたねらいを設定し、児童と確認しました。ねらいの達成に向けて頑張った児童を認めて褒めることで、自己肯定感の向上につなげることができました。

ハッ！柔軟に変更してもいいんだ！



解決するための

ヒント

■ 交流の側面も大切に

交流学級の児童と同じ学習目標の達成ばかりに目を向けると、特別支援学級の児童の自己肯定感の低下や、保護者の不安感の高まりにつながる可能性もある。だから、特別支援学級の児童が交流学級の児童と話せたこと、同じ場所で頑張れたことなど、交流の側面を認める声掛けも、積極的にしていこう。

また、本人の実態に応じた学習目標を達成していけば心配ないことを伝えよう。



(6) 交流学級でのトラブル

宮城県の先生方の

悩み事

- 特別支援学級の児童が友達に乱暴したり、暴言を吐いたりする場合がある。
- トラブルがあり、特別支援学級の児童が交流に消極的になった。



宮城県の先生方の

好事例



キーワードは「**互いの理解**」

■経験を学びにつなげる

交流学級の児童と常に関わりを持つことで、様々なトラブルが起きますが、実際に児童が経験したことからコミュニケーションを図る上での学びにつながるような指導を行っています。

■その都度説明

トラブルがあった場合、交流学級の児童に、特別支援学級の児童がどんなことが苦手なのか、どんな接し方をしてもらえたら助かるのかといったことを、その都度説明しました。それにより、特別支援学級の児童に対する理解が深まったと思います。

ハッ！トラブルが障害理解を深める機会になることもあるのか！



解決するための

ヒント

■サポート体制の構築



トラブルが発生した後は、トラブルが起きた要因や対応方法を教職員間で共有し、児童をサポートできる体制をつくろう。トラブルが発生したことで、特別支援学級の児童自身も困っているということを忘れないようにしよう。